滋賀GPN News
Shiga Green Purchasing Network
滋賀グリーン購入ネットワークニュース
第21号 2012年2月
環境への負荷が小さい商品・サービスの優先的購入を進める地域ネットワーク
GPN Green Purchasing Network

CONTENTS

■Report1　グリーン購入フォーラム2011in滋賀 …… 1
■Report2　自治体のグリーン購入担当者連絡会議 …… 4
■Report3　第１回事業者交流会 …… 5
■Report4　環境にやさしい買い物キャンペーン …… 6
■活動実績 …… 6
■エコに学べ！ 美鈴環境サービス …… 7
■会員発エコ商品情報 …… 8
■編集後記 …… 8

Report1 グリーン購入フォーラム2011in滋賀

毎年「びわ湖環境ビジネスメッセ」と同時開催するグリーン購入フォーラム。今年は関心の高まるエネルギー問題をテーマに取り上げました。その一部をご紹介します。

◆開催日：2011年10月20日（木）
◆会　場：長浜バイオ大学　◆参加者：205名

「持続可能な社会を支える、これからのエネルギーと私たちの選択」

講師：環境エネルギー政策研究所　所長　飯田 哲也さん

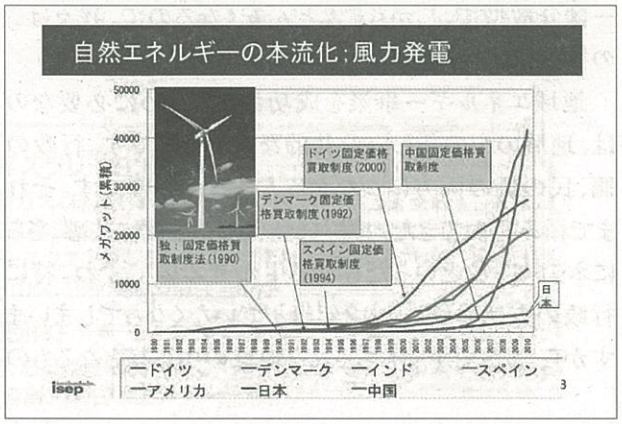
我が国のエネルギー政策はおよそ20年単位で変化してきました。1950年代に脱石炭から石油への転換、70年代に脱石油・脱公害、原発・天然ガスへの転換、90年代に規制緩和・地球温暖化防止の観点から原発に傾斜してきましたが、それも今、転換期を迎えているのだと考えます。（中略）

固定価格買い取り制度は1990年のドイツの制度を皮切りに、92年のデンマーク、94年のスペイン、そして2000年にドイツが大幅に制度を改定し、2006年に中国が導入しました。以来、風力発電による発電量は毎年それまでの累積と同じ量が増えるというとてつもない増え方です。これまでに世界87の国と地域で制度化され、日本も2011年8月にこの法案を成立させたので88番目ということになります。一旦この法律を導入すると、龍が天に昇るように市場がどんどん拡大していきます。

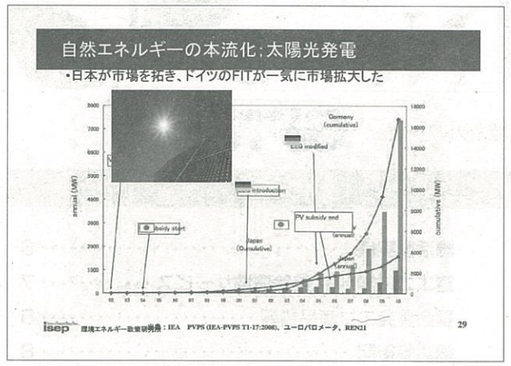
太陽光発電では、2003年までは日本はドイツより大きな市場だったのですが、あっという間にドイツに抜かれました。ドイツは2010年の1年間だけで740万kW、発電容量にして原発1.5基分に相当する太陽光が新たに設置されています。日本はドイツに抜かれてから、むしろ市場が小さくなり始めましたが、2009年から太陽光発電の余剰電力買取制度が導入されて、25万まで減った市場が

〈講師プロフィール〉
飯田 哲也さん
環境エネルギー政策研究所 所長
（ミスター・エネルギーシフト）

京都大学原子核工学専攻修了。東京大学先端科学技術研究センター博士課程単位取得満期退学。大手鉄鋼メーカ、電力関連研究機関で原子力R&Dに従事した後に退職。自然エネルギー政策では国内外で第一人者として知られ、先進的かつ現実的な政策提言と積極的な活動により、日本政府および東京都など地方自治体のエネルギー政策に大きな影響力を与えている。



Report1 グリーン購入フォーラム2011in滋賀



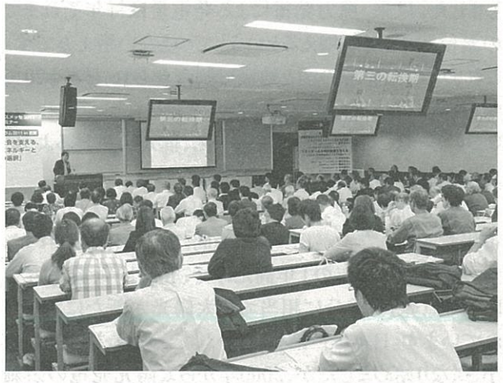
2009年には60万に倍増し、2010年に100万に倍増し、2011年にはさらに200万までに増えると言われています。家庭の太陽光だけ、それも余った電力だけを対象として10年間だけ買い取るという、他国に比べると中途半端な政策なのですが、それでも政策の力は大きいです。今後はメガソーラーも対象になってくるので桁違いに増えて、日本が再びドイツを追い越す可能性も出てきました。（中略）

地球上には、これまで人類が使ってきた化石燃料、原子力の年間使用量の1万倍もの太陽エネルギーが降り注いでいます。太陽熱や太陽光など直に使うものだけでなく、風力もバイオも小水力も、みんな太陽エネルギーによるものですから、その1万分の1を人類が使う二次エネルギー（電力、熱、燃料）に変えてやれば、我々の全エネルギーを賄うことができるわけです。自然エネルギーが高いという話がありますが、「技術学習効果」によって、つくればつくるほど安くなるのです。化石燃料は過去10年で5倍に上がり、そこに温暖化のコストも加算されていくので、今後10年でどこまで上がるのでしょうか。原子力は事故対策のコストを入れたらとんでもなくコスト高になります。それに対して自然エネルギーは分散型で、しかもどんどん安くなるので、我々はこの技術に賭けるしかないと思います。（中略）

地域エネルギー事業を成功させるために必要なのは、地域の中の新しい公共的な人材と場です。行政の側、民の側の両方につながる人と場が必要です。それまで積み重ねてきた知識、経験、信頼、洞察、共感、さらにネットワークといったものが生かせる場ですね。特に行政の方は異動により2年ほどでいなくなってしまいますから。ささやかでもちゃんと地域の中に核となるものがあって、まずは小さな身の丈プロジェクトから始まって仲間をつくり、仲間が増えて、知識と経験が積み重なって次のもう一回り大きなプロジェクトができる。ちょうど小さな砂粒が貝殻の中に入って、それが中心となって美しい真珠ができるかのような、そうしたプロセスを行政と市民の両側にしっかり育てていかないと失敗してしまいます。（中略）

自然エネルギーを地域で地産地消するだけでなく、マネーをどう循環させるかということも大切です。たとえば青森県は、最も風車の数が多くて200本あるのですが、このうち地域の資本でできたものはわずか3本、残り197本は東京か大阪の資本です。

デンマークは日本の九州ほどの面積ですが日本の3倍の風車があり、1人あたりの風車密度が世界で一番高い国です。しかし、デンマークでは日本で見るような反対運動はほとんどありません。なぜかというと、30年前に自然保護団体や地域の人々、事業者とで話し合って風車を設置して良い場所といけない場所を予め区分けしたことに加えて、デンマークの風車の85%が地域の人たちの所有物だからです。大型風車が一周回ると100円から200円くらいの売上が自分の口座に入るのですから、風車が回っていれば所有者は快適だと思います。対象物と地域の人々をプラスにしていくという考え方が大切ですね。風力を例に挙げましたが、小水力であれ、太陽光であれ、「地域のオーナーシップ」「地域に便益を戻す」という考え方がとても重要です。もちろんお金だけでなく、自然エネルギーを増やし、地域で自立していくということが地域社会の「誇り」となり、その「誇り」も地域社会に還元していくということが大切なのではないかと思います。



パネルディスカッション

「エネルギーの地域的課題を考える ～ エネルギーの地産地消はどこまで可能か? ～」

●コーディネーター：東京都市大学 教授　中原秀樹さん
●パネリスト：環境エネルギー政策研究所 所長　飯田哲也さん
日本電気株式会社 環境推進部長　齋田正之さん
滋賀県温暖化対策課 課長　市木繁和さん
菜の花プロジェクトネットワーク 代表　藤井絢子さん

中原

3.11以後の対策として、大学ではエレベーターを停め、学生を窓際に座らせて照明を消し、年中空調をきかせて閉め切っていた窓に網戸をつけた。それだけで電気使用量を60%も削減できた。自分たちの暮らしが、なんと多くのエネルギーを使っていたのかと気づく機会にもなった。グリーン購入運動の発祥の地である滋賀県において、エネルギーについても新しい取組が生まれることを期待する。

齋田

これまで購買の判断基準と言えば性能やコストが一番のポイントであったが、震災以後、「省エネ」であることが最大のポイントになってきた。エネルギーの見える化が必要だと感じている。そうした意味でITが不可欠だ。当社はITと蓄電で高い技術を持っているので、これらを駆使してスマートグリッドの普及、スマート社会づくりに貢献していきたい。

市木

「低炭素社会づくりの推進に関する条例」では、省エネ製品の製造やサービスの提供による温室効果ガス削減も評価する。そうした取組を応援する意味もある。滋賀県の自然エネルギーの割合は2%強で小さい方だが、県内の太陽光パネルをつけている家庭は全国5位と多い。意識の高い方が多いのだろう。地域分散型の再生可能エネルギーで、自らの使うものは自らが賄う世の中になることが望ましい。

藤井

農地で食べものをつくるだけではなく、エネルギー供給基地としたい。そんな思いで愛東から始めた「菜の花プロジェクト」は世界に広がった。政策が追いついてくれれば、この国の新しい可能性を見いだせる。滋賀県には様々な市民と行政の協働プロジェクトがあるので、それらをつなぎたい。エネルギーを地域でつくり、地域にお金が落ちるようになれば、三方よし+「孫子よし」だ。その精神で未来に投資する面白さを伝えて、活動をさらに広げたい。

飯田

これまで地域はエネルギー政策を持たなかったが、今後は持たなければならない。「低炭素条例」を「卒原発地域エネルギー条例」とするのも良い。大切なことは地域のオーナーシップ、お金の循環、絆。そしてそれらを生み出すのは知恵だと思う。地産地消というと物だけを考えがちだが、一番大切なのは「地域のつながり」だ。

「びわ湖環境ビジネスメッセ2011」

ご来場・ご協力 ありがとうございました

2011年10月19日～21日に開催されたメッセに出展しました。会員ブース連携で実施し、毎年好評の「滋賀GPNスタンプ&クイズラリー」には約1,100名にご参加いただきました。

〈スタンプ&クイズラリー参加団体〉

(株)伊藤園、大阪ガス(株)滋賀事業所、関西電力(株)滋賀支店、木村電工(株)、(株)コクヨ工業滋賀、(株)滋賀銀行/(株)しがぎん経済文化センター、上西産業(株)エースウエア営業部、(株)新聞素材、大日本スクリーン製造(株)、(株)平和堂、(株)山久、(財)淡海環境保全財団

〈協働出展参加団体〉

NPO碧いびわ湖、滋賀県産間伐材有効利用促進グループ、(株)スマイ印刷工業、(有)ワイエス商事、(株)日本エナジー研究所

Report2 自治体のグリーン購入担当者連絡会議

「木になる紙」がとっても気になった研修会

■実施日:2011年11月16日(水)
■場　所:草津市立市民交流プラザ
■参加者:22名

県内全自治体が参加する滋賀GPN「自治体部会」では、年2回、連絡会議を開催しています。秋の連絡会議では、今年度「グリーン購入大賞『環境大臣賞』」を受賞された佐賀市の取組について学びました。

佐賀市では、地元佐賀市産を含む九州の間伐材を使用したコピー用紙を佐賀市役所の全部署で使用されています。このコピー用紙「木になる紙」は再生紙であることに加え、「カーボンオフセット」が付加され、売上金の一部(A4サイズ1箱当たり約50円)が間伐材を拠出した森林所有者に還元されるという商品です。地球温暖化防止、森林整備の促進、地産地消の推進と幅広く環境や地域に貢献できる調達政策であると評価され、『環境大臣賞』を受賞されました。今では佐賀県内7割の自治体が「木になる紙」を導入されているそうです。

佐賀市のグリーン購入の取組について

佐賀市 総務部
契約検査課 調達係長
山口 和海さん

佐賀市は北部の山林から南部の田園地帯と有明海までに及ぶ自然豊かな環境を守り続けるため、平成13年度に県内で初めてISO14001を認証取得するなど、環境保全活動には力を注いできました。平成22年度からは市独自の環境マネジメントシステムの運用を開始して各種環境施策の進捗管理を行っていますが、その中でグリーン購入の取組については、重要な位置づけとなっています。

本市が地域の一消費者として、循環型社会の構築を組織的に目指していくために、環境行政部門が「グリーン購入手順書」を定めて全部署に周知し、各部署はこの物品等の選定基準に従いながら業務の遂行を行っていくという流れが、本市では定着しています。

具体的には、消耗品類(用紙類、事務用品、衛生用品、被服等)や備品類(事務機器、オフィス家具、自動車等)及び役務(印刷物)等について購入基準が定められており、エコマーク認定商品やグリーン購入法適合商品などのより環境負荷の少ない物品等の購入に努めています。

私が属する調達行政部門におきましては、各部署で広く購入される消耗品類を、年間の単価契約物品として選定し契約しておりますが、各部署共通の選定手順には、第一に「単価契約物品を購入する」という定めがあります。このため、調達行政部門が環境に配慮した物品をより多く単価契約物品に選定すれば、市全体としてのグリーン購入の取組も底上げ推進されていく仕組になっており、平成22年度のグリーン購入率(物品の調達数ベース)は97.8%を達成するまでになりました。

今後も本市の調達行政部門としましては、新たな社会的要請である林業・福祉・地場産業等への政策的な側面支援も合わせながら、グリーン調達のさらなる向上を目指していきたいと考えています。

参加者の声

佐賀市の取組についての講演が、非常に印象的でした。多くの人にとって、グリーン購入が地球環境の保全につながると聞いても、それを身近なこととして実感できないでいるのではないかと思います。しかし、佐賀市での取組は、まさに皆が住む地域のすぐそばの森林保全に生かされます。グリーン購入の輪を広げるのに、この「身近な恵み」という点が、大きなヒントになるのではないかと思いました。

米原市 環境保全課
青木 吉史さん

佐賀市で取り組まれた間伐材を利用した「木になる紙」利用促進は、グリーン購入の考え方に則った素晴らしい取組だと思いました。価格的に不利である環境配慮商品も、それを利用する人が増え、一般的・当たり前になれば、需要と供給のバランスにより求めやすい価格になる。その代表的な実践事例というだけでなく、売上金の一部を地域に還元するという仕組みは、ぜひ本市においても検討をしていきたいと思いました。

野洲市 環境課
村上 真規さん

Report3 第1回事業者交流会

どんな事業所でもできる! オフィスの節電対策

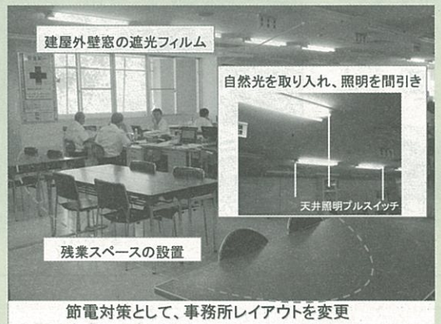
■実施日:2011年11月30日(水)
■場　所:大津合同庁舎
■参加者:38名

「会員活動部会」では、初めての試みとして会員同士が情報交換を行う事業者交流会を開催しました。テーマは「この冬の『節電対策』を考えよう!」電力需給量が厳しくなることが予想され、事業者に節電が求められる冬の訪れを前にタイムリーなテーマ設定であったためか、定員(30名)を超える参加をいただき、急遽大きな会場に変更しての開催となりました。

取組事例報告

京セラ(株)滋賀蒲生工場
環境課
布本 恭子さん

京セラの蒲生・八日市工場では、LED照明への交換やユーティリティ設備の電力使用量の見える化等、設備面での節電対策に加えて、どのような規模の事業所でも対応できる身近な取組も進めています。例えば、明るい窓側に事務机を移動し、不要な照明の消灯に努めたり、また、夜間照明を最低限に抑えるために、新たに残業スペースを設けたり、出入り口に風除けパーテーションを設置したりと、少ないコストで効率的に節電する工夫をご報告いただきました。



節電対策として、事務所レイアウトを変更

京セラ 布本さんの報告に続いて、「ムダをマイナス、快適をプラスする『快適節電』の手法」というテーマで、パナソニック電工(株)滋賀営業所の山口孝幸さんに、「滋賀県庁舎における節電対策と、低炭素社会づくりに向けての滋賀県の取組について」というテーマで滋賀県 温暖化対策課の馬渕兼一さんにお話いただきました。

様々な事例を学んだ後は、参加者の持ち寄った節電機器に関する情報交換と、グループディスカッションを行いました。

京セラ 布本さんの報告にあった女子社員の足元保温対策としてウレタンマットを敷く工夫には、参加者から「ウレタン材ならうちの工場で余っているのを無料で差し上げますよ」という新たな情報が飛び出し、「うちもください」と手を挙げる参加者もあるなど、活発な情報交換が行われました。

参加者の声

各社で実施された「夏の節電対策」に対する取組として、企業様の事例報告内容については、様々な創意工夫を実践しておられ、とても興味深く拝聴させていただきました。また、意見交換会では「冬の節電対策」に対して、各社様で取組まれている施策内容や、問題点、改善手法などの情報を収集することができ、とても有意義な時間を共有することができました。

西日本電信電話(株)滋賀支店
企画総務部　総務担当
山崎 公嗣さん

京セラ様が報告されていた、この冬の「節電対策」の実例として、①厨房から出た熱を室外機の霜取りに再利用する、②天井から自然採光を取り入れるなどは、大がかりな投資に頼らない取組であり、多くの企業が実践すれば節電の積上げから大きな効果につながると思います。新たな設備導入よりも、既設の運用を工夫して節電につなげる方法が、まだまだ残っていることを教えていただきました。

大西電子(株)
顧問
村北 健一さん

Report4 環境にやさしい買い物キャンペーン

キャッフィーと楽しいエコイベント開催!

「環境にやさしい買い物キャンペーン」の一環として、大型小売店「ビバシティ彦根」で開催された環境イベント(主催:滋賀県・買い物ごみ減量推進フォーラムしが)の企画・運営を担当しました。

パネル展示・クイズラリーとステージイベントを行い、滋賀県のイメージキャラクター「キャッフィー」も大活躍。親子連れを中心にグリーン購入について楽しく学んでいただきました。

■実施日:2011年12月10日(土)
■場　所:ビバシティ彦根

人形劇「グリーン購入ってなぁに?」

お買い物が大好きなペンギンのぽうや『エコぺん』は、ムダづかいばかりしていました。そんなある日、夢に出てきた病気の『地球さん』。地球さんを助けるためには「みんなでグリーン購入を始めることが大切」と聞き、ママと一緒にグリーン購入を始めます。

▲イベントを盛り上げてくれた滋賀県キャラクターの「キャッフィー」

「キャッフィーとこどもクイズ大会」

お買い物に来た子どもさんたちが回答者席に座り、環境クイズに挑戦しました。「タコ・サケ・カニのうち、春が旬の食べ物はどれ?」「おうちから出るごみのうち、容器や包装のごみはどれくらい?」見ているおうちの方にも一緒に考えていただきました。

「エコミュージックショー」

滋賀県立大学アコースティックサウンドクラブの皆さんに演奏していただきました。

活動実績(2011年9月1日〜12月31日)

2011年 9 月 1 日	「買うならエコ! 創刊号・秋号」発行
2011年 9 月 6 日	「グリーン購入セミナー ～グリーン購入の意義と役割～」開催(参加者25名)
2011年 9 月 7 日	「第6回常任幹事会」(参加者11名)「第53回幹事会」(参加者26名)
2011年 9 月16日	「草津市職員研修会」講師協力(主催:草津市)
2011年10月 1 日	「ニュースレター第20号」発行
2011年10月 4 日	「セミナー『ひろげようグリーン購入!』」講師協力(主催:おおさかATCグリーンエコプラザ実行委員会)
2011年10月19日〜21日	「びわ湖環境ビジネスメッセ2011」出展(主催:滋賀環境ビジネスメッセ実行委員会)
2011年10月20日	「グリーン購入フォーラム2011in滋賀」開催(参加者205名)
2011年11月16日	「自治体のグリーン購入担当者連絡会議」開催(参加者22名)
2011年11月17・21日	「グリーン購入学習会」講師協力(主催:東近江市・東近江市さわやか環境づくり協議会)
2011年11月25日	「第1期環境マイスター認定研修会」講師協力(主催:日本自動車販売協会連合会 滋賀県支部)
2011年11月30日	「第1回事業者交流会～この冬の『節電対策』を考えよう!～」開催(参加者38名)
2011年12月 1 日	「買うならエコ! 冬号」発行
2011年12月 4 日	「草津市地球冷やし隊フェア」出展 (主催:草津市)
2011年12月 8 日	GPプラン滋賀「登録説明会」「基礎研修会」「実践講座」開催(参加者延べ93名)
2011年12月10日	「環境にやさしいお買い物イベント」開催(主催:買い物ごみ減量推進フォーラムしが)

エコに学べ!

環境保全活動でビジネス展開

最先端を突き進むお客様のための衛生管理

有限会社美鈴環境サービス 代表取締役　鈴木 健司さん

足元から行動

昨年より私は環境経営士の資格を取得し、簡易版環境マネジメントシステム「コンパクトエコシステム」の普及活動を始めました。その中でいつも皆様にお伝えするのが「足元から行動して下さい」ということです。消費者意識調査では「企業は社会貢献するべき」という回答が93.5%となっています。小さな企業でも地球環境問題に対して取り組まざる得ない時代を迎えたのではないでしょうか。

環境経営で増収

コンパクトエコシステムを始める際に、まず私も含めた全社員10名にアンケートを行い、初年度の活動内容を決めました。冬の節電では、室温をただ20度に設定するのではなく、「20度に保つ為に」を考えました。結果は「18度設定で十分」な室温が得られたため、夏の節電対策も含め、電気代を昨年と比べて4万円も安くすることに成功しました。

また害虫駆除の際にお客様からお借りしていた電気も、昨年から電力量とCO_2排出量を計測して報告書で公表することにしました。そして、滋賀GPNの「いちおしグリーン商品リスト」に掲載されているグリーン商品を、排出量と引換えにお客様に提供するといったサービスを始めました。さらに衛生管理に環境経営の支援を導入し、新しい環境管理業務もスタートしました。コンパクトエコシステムの導入で隙間ビジネスへの道を開く事ができ、さらに増収につながった事で環境経営の素晴らしさを実感することができました。

▲窓には夏はすだれ、冬にはプチプチの緩衝材を貼り付けて節電対策を実施。

現在と未来

しかし、安全・安心・安定に力を注いでも、ネームバリューに及ばないのが現実です。長年築き上げられた大手企業のブランド力に近付くには、足元からでも社会貢献を積み重ねる積極的な姿勢を公表していくことしかありません。そこで、先進性でも負けないように害虫駆除も環境保全とすることとし、ケミカルからノンケミカル主体の方法へと変更しました。環境という定義のないワードには、ビジネスチャンスへの契機が沢山隠されていると思います。企業永続を目指して職場環境から改善し、常に人材の「人財化」に取り組む姿勢を大切にしつつ頑張り、契機を掴みたいと思います。

▲雨水タンクによる植栽。

〈お問合せ〉
(有)美鈴環境サービス
大津市坂本7-32-30
ロータスビル2-C
TEL:077-578-6904

新規会員から ひとこと

2011年9月1日〜12月31日入会会員

JAおうみ冨士
(ファーマーズ・マーケット事業部 部長　川端 均)

フードマイレージを意識した地域食材提供をめざしていますが、食材搬入時における古新聞や段ボール等の資源を再活用できる取組をより一層強化したく考えています。

有限会社エル・ビー・エルコーポレーション
(代表取締役　田中 広徳)

通信設備工事、防犯・監視カメラの提案から施工管理を主に展開しております。皆様と親交を深めながらご指導頂き、環境に配慮した事業所として前に進んで参ります。

有限会社　創　楽
(代表取締役　瀬尾 朗)

身近な実践可能なことから取り組み、現状よりベターな環境経営をめざします。キャンペーンへの参加もしてみたいし、講習会を拝聴して参考にしたいと思います。

現会員数:444(2012年2月1日現在)
(企業387、行政22、非営利団体35)

GPN Green Purchasing Network

<お知らせとお詫び>

前号(第20号)の紙面3頁「『グリーン購入大賞』受賞事例報告」記事中、「第12回審査員奨励賞受賞　株式会社伊藤園」と記載しておりましたが、「第12回審査員特別賞受賞」の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。

会員発エコ商品情報

次回掲載情報（商品・サービス）募集中!

琵琶湖の“葦から生まれたエコのお箸”「恵湖時代」

有限会社ワイエス商事

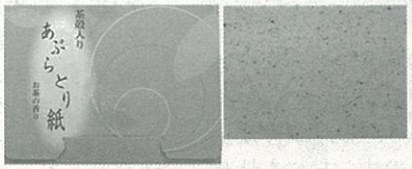
琵琶湖の“ヨシ”51%のバイオプラスチック製

山林資源保護の観点から割り箸に替わってプラスチックやガラス繊維製の箸が業務用として大量に使用されています。しかし、これらの箸は廃棄処理に大きな燃焼エネルギーが必要で、環境負荷も大きいという問題を抱えています。当社の製品は琵琶湖の“ヨシ”を主成分としているため、廃棄する際にも環境に与える影響が非常に小さいだけではなく、自然な木質感・高級感に優れていることが特徴です。社内食堂・学校給食・一般業務用にご検討ください。

<お問合せ> 有限会社ワイエス商事
京都市伏見区桃山町大島38-408
TEL:075-612-2028　FAX:075-612-2028
E-mail:nakano@ys-shoji.net

茶がらを無駄なくリサイクル「茶サイクルあぶらとり紙」

有限会社 南商店



■10 枚入 ¥47
■20 枚入 ¥62
■30 枚入 ¥77
（横88mm x 縦65mm）

第12回グリーン購入大賞「審査員特別賞」を受賞した伊藤園独自の「茶殻リサイクルシステム」により、茶殻加工に必要だった乾燥工程を省き、含水茶殻をそのまま利用した茶殻配合紙を使用しています。

乾燥工程で発生する二酸化炭素「CO_2」や燃料費を抑制、紙原料を削減した環境商品です。名入れ可能。お気軽にお問い合わせください。

<お問合せ> 有限会社 南商店
大津市におの浜3丁目4-37
TEL:077-522-1914　FAX:077-522-5288
E-mail:minami-shouten@zeus.eonet.ne.jp

編集後記

今号の“Report”にもあります第1回事業者交流会『この冬の「節電対策」を考えよう！』では、滋賀県温暖化対策課より低炭素社会づくりに向けての滋賀県の取組について情報提供をいただきました。滋賀県生協連合会のコープしがにおいても昨年の9月より、BDF100%の配送車両を油藤商事(株)さんのご協力を得て稼働させており、今後も増車の予定をしています。しかし、原料となる廃食用油の調達に苦慮し、会員生協の食堂や店舗に求めているところですが、大学生協では駅からキャンパス間の巡回バスの燃料とするなど、既に循環環境が構築されています。廃食用油の提供についての情報をお持ちの方がおられましたら、ぜひ滋賀県生協連までご紹介ください。(滋賀県生協連TEL:077-525-6040)

また今年は、国連総会で決議された「国際協同組合年」であり“協同組合がよりよい社会を築きます”のスローガンのもと、県内の協同組合と力を合わせて、環境問題も含めた社会的なアピールを旺盛に展開していきたいと考えています。どうか今後とも倍旧のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

（普及啓発部会　藤田 豊／滋賀県生活協同組合連合会）

あと少しで東日本大震災から１年となります。この１年間は被災地の復興支援から原発問題に伴う節電や今後のエネルギーのあり方について再考させられる機会が多かったかと思います。滋賀ＧＰＮの「会員活動部会」でも、昨年末に～この冬の節電を考えよう～と題して事業者交流会を開催したところ、多くの会員団体にご参加いただき、こうした問題への関心の高まりを感じました。

震災前には原発推進が地球温暖化対策の要とも言われていましたが、そこから大きく転換し、再生可能エネルギーを重要視する声が高まってきています。今後の政府の対応を始め、これから企業や団体がどのように対応していくべきなのか、真剣に考える時だと思います。また、こうした時期にこそ、滋賀グリーン購入ネットワークの輪を更に広げ、私たちの活動を推進していくことが、この難局を乗り越え、世の中を正しい方向へ導くことにつながるのではないでしょうか。

「会員活動部会」でも、皆様から必要とされるタイムリーな会員間の情報交換の場を今まで以上に提供できるように努めてまいりたいと考えておりますので、皆様からも忌憚のないご意見をお待ちしています。

（会員活動部会リーダー　西塚 哲夫／(株)平和堂）

編集・発行／滋賀グリーン購入ネットワーク
〒520-0807
滋賀県大津市松本一丁目2番1号　大津合同庁舎6階
TEL:077-510-3585　FAX:077-510-3586
E-mail:sgpn@oregano.ocn.ne.jp　URL:http://www.shigagpn.gr.jp/

このニュースレターは、GPN-GL14「オフセット印刷サービス」発注ガイドラインに基づき作成しています。

GPN Green Purchasing Network 印刷サービス
印刷サービスのグリーン購入に取り組んでいます